

『あつまれ！

『全日本ごとうちグルメさん』

ふくべあきひろ 文、おおのこうへい 絵、ブロンズ新社、2011年

全国のご当地グルメが、岩手県の「わんこそばちゃん」や、大分県の「とり天使」など、ユーモラスなキャラクターになって登場。方言や、各地の名物おやつ、特産野菜や果物なども出てきて、都道府県について楽しみながら知識が身につくよ！兵庫県のご当地グルメはなんでしよう？

はと時計 11月号

“たべもの” をめぐる本

松蔭中高図書館 library@shoin-jhs.ac.jp 担当：大利

2025年11月4日 発行

食欲の秋！「おいしいものを食べることは人生の「よろこび」のひとつですよ」
今回は、“たべもの” にまつわる本をとりあげました。



『偉人メシ伝』

「天才」は何を食べて「成功」したのか？

真山知幸 著、笠間書院、2022年

コーヒーが大好きで儉約家だった音楽家バッハ、ワインが好きで浪費家のモーツァルト、肉とにんにく料理を愛した恋多き画家ピカソ、蕎麦ばかり食べていて90歳まで生きた葛飾北斎など、偉人の人生と食べ物に関するエピソードが楽しめる本。

『ハラヘリ読書』

宮田ナノ 著、KADOKAWA、2022年

ノスタルジックな画風の宮田ナノさんによる、本の中に出てくる「食べもの」についてのコミックエッセイ。その作品を読んでいなくても、おいしい食べ物の描写を楽しめること間違いなし！「…粉砂糖は舌の上で、春の淡雪よりも早く溶けて…」「卵黄と、ミルクと、ヴァニラの香いが唇一杯にひろがる滑らかなクリームは…」(森茉莉 著「貧乏サヴァラン」より)。おいしそう…どんなお菓子の描写でしょうね？このコミックを読めば、食べたくなるし、作品も読んでみたくなるし…の一挙両得！

『食文化・郷土料理がわかる』

世界の国旗弁当』

青木 ゆり子 著、誠文堂新光社、2021年

220か国の世界の国旗を、お弁当で再現！いかにもインスタ映えしそうな、カラフルで楽しい世界の国旗「キャラ弁」の写真がずらり。しかもお弁当のおかずには、それぞれの国の食材をできるだけ使っているそう。簡単なレシピもついています。世界の食文化と郷土料理を楽しく学べる本。あなたは、どの国のお弁当を食べてみたい？

『世界の朝ごはん』

-66カ国の伝統メニュー』

岩原和子 執筆、パイ インターナショナル、2023年

世界中の朝ごはんの写真でいっぱい！コンパクトな写真集のような本。フランスのクロワッサン、アメリカのエッグベネディクト、中国の白粥といった有名なものから、タンザニアのサンブーサ、チェコのコブリハといった珍しい朝ごはんまで。パラパラみるだけで、おなかが「グーっ」てなりそう♪「朝ごはんの歴史」「映画と朝ごはん」「朝ごはんの飲み物」など、コラムも好奇心を満たしてくれます。

『古典がおいしい！平安時代のスイーツ』

前川佳代・穴戸香美 著、かもがわ出版、2021年

1000年も前の平安時代にも、お菓子はあったのでしょうか？その昔、「お菓子はシルクロードを旅して伝わってきた」そう。清少納言は「枕草子」の中で、「高貴で上品なもの」として「けずり氷（ひ）」をあげています。「あてなるもの…（中略）削り氷（ひ）に甘葛（あまづら）を入れて、あたらしきかなまりに入れたる。」＝「削った氷に甘葛をかけて、新しい金属製のお椀に入れてあるの。」甘葛とは、あまづらせんというツタの樹液のシロップだとか。この本では、砂糖を代用したあまづら風シロップで作り方が載っています。ほかにも源氏物語に出てくる「つばきもち」や土佐日記の「まがり」（クッキーみたい）など当時の日本人が楽しんだスイーツのレシピや写真、解説を掲載。



『祖母姫、ロンドンへ行く！』

榎野道流 著、小学館、2023年

「一度でいいからロンドンに行ってみよう。お姫様のような旅をしたい。」という高齢の祖母を連れて、ロンドンへの豪華旅行決行！わがままいっぱいお姫さながらにふるまう「祖母姫」（お祖母ちゃん）との珍道中をまとめた抱腹エッセイ。自己肯定感高め、頑固で優雅な祖母姫の名言の数々、ホテルのバトラー、ティムとの心温まる交流など、読みどころ満載。トラブル続出ながらも旅は続く…。イギリスを象徴するようなアフタヌーンティーや、オリエント急行内でのディナーの場面もすてきです♪

『あん』

ドリアン助川 著、ポプラ文庫、2015年

物語の舞台は、小さなどら焼き屋「どら春」。雇われ店長の千太郎が出したアルバイト募集に、お手製で絶品の「あん」を持ってやってきたのは、徳江という老女。このおいしい「あん」のおかげで店の経営は上を向くが、ある日を境に客が減ってしまう。指が折れ曲がり、左右の目の大きさが違う徳江に対して、ある噂が流れたために…。徳江の送ってきた厳しい人生と、おいしいあんこの秘密が後半に明かされます。



図書館クイズ2025 正解 (作成：眞鍋)

- 『風が強く吹いている』の主人公たちが所属する大学はどこですか？
イ. 寛政大学
 - 『ハイキュー！！』の日向翔陽と天才セッターとしてコンビを組むのは誰ですか？
ウ. 影山飛雄
 - 『ちはやふる』の主人公・綾瀬千早が競技かるたを始めるきっかけになったのは誰ですか？
ア. 綿谷新
 - 『一瞬の風になれ』は陸上競技をテーマにした小説ですが、神谷新二と幼なじみでかつ天才スプリンターは誰ですか？
ア. 一ノ瀬連
 - 『サクリファイス』は自転車競技がテーマで、陸上競技から転身した主人公・白石誓はエースの犠牲になって貢献することになります。その役割と何と言う？
ウ. アシスト
- 連絡のあった正解者の人はカウンターで賞品を選んでください。



皆さんが使えるようになった**兵庫県立図書館の電子書籍サービス**のおすすめ本を紹介します。目次や本文の全文検索もできますので、レポートなどで必要な部分だけ読むことができます。

『**こどもSDGs大図鑑365 - 1日5分で未来が変わる！ -**』 齋藤孝著 実務教育出版 2022

一日一ページでSDGs関連の話題が書かれています。例えば

- ・「ESD」という言葉を聞いたことある？
 - ・もし一日電気がつかえなかったら？
 - ・ヘイトスピーチをしている人がいたら、やめてもらおう
 - ・「培養肉」って知ってる？
 - ・読まない本や参考書が寄付できるって知ってた？
 - ・サステナブルシーフードを買ったことある？
- など。



『**ほんとうのサステナビリティって何？ - 食と農のSDGs -**』 関根佳恵編 農山漁村文化協会 2023

では「カップラーメンから考える世界のつながり」「ペットボトルのお茶と喫茶文化」「工場型畜産からアニマルウェルフェアへ」「フードテック-代替タンパク質は食料危機を回避するか」などのコラムがあります。

『**「気候変動・脱炭素」14のウソ**』 渡辺正著 丸善出版 2022

近ごろ台風が凶暴化し、水害も増えてきた、太陽光・風力発電は、国のCO2排出を減らすなど14のウソを解説し、最後に「ホントのことを言えないメディア」のことが書かれています。気になるウソの項目だけ読んでもOK。

『**世界の食文化百科事典**』 野林厚志ほか編 丸善出版 2021

「**宮廷の食事**」ではヴェルサイユ宮殿でのルイ14世の食事の様子を「**空の上の給仕**」では機内食の歴史と発展を「**宇宙食**」では宇宙で食べられる食品の種類と食べ方を解説しています。

電子書籍サービスの使い方が分からなかったり、あなたのIDとパスワードを忘れた場合は図書館カウンターまで問い合わせして下さい。

新着図書紹介

『**日本でしか観られない世界の名画**』 岡部昌幸著 青春新書プレイブックス 2022

アメリカ、ドイツに次ぐ世界第三位の美術館大国日本。オリジナルが観られる場所を紹介しています。モネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌ、ドガ、マネ、ゴーギャン、ムンク、エル＝グレコ、ミレー、ターナー、モディリアーニ、ピカソ、カンディンスキーなど。

現在展示しているか、確認してから行きましょう。

『**写楽殺人事件 新装版**』 高橋克彦著 講談社文庫 2025



大河ドラマ「べらぼう」で写楽を誰が演じるのか、話題になっています。有名人の別名？彼はたった10ヶ月しか活動しなかった。蔦屋重三郎が亡くなる三年前に出版した無名の絵師の28枚の絵。写楽とは、誰だったのか？大河ドラマを見ながら、蔦屋の生んだ絵師の謎を楽しんでみては？

11月10日（月）～15日（土）まで

宗教週間に廃棄した雑誌や図書のチャリティバザーを実施します。

ほしいものがあつた人は1冊につき10円以上の寄付をお願いします。

また今年は往年のグループ文庫を廃棄しましたので、OGの方にとって懐かしい本もたくさん出品する予定です。

11月15日（土）まで、全校読書運動「共存・共生」のPOP優秀作を展示しています。